



夏休みを前に

校長 田邊 克宣

未曾有の記録的大雨による西日本での甚大な被害には、心が痛みます。本日（7/11）の避難訓練では、地震や水害等、いつ、どこで被災するかも分からない今日、中学生として、まずは自分の命を守ること、そうすることで、仲間や他者への手助けをすることもできるのだということをお伝えしました。5時間目の道徳の時間では、非常時の連絡方法や集合場所を決めている家庭も多くあるということをお聞き、この地域の防災意識の高さに安心した次第です。天災を完全に防ぐことは難しいだけに、学校・家庭・地域で、できうる限りの減災を考えていきましょう。

さて、7/9（月）は、今年度第1回の道徳朝礼でした。指導項目は「思いやり」として、始めに全学年で、『わたしのいもうと』（※1）を私から読み聞かせ、その後、学年ごとに「いじめ」を題材とした道徳を実施しました。2. 3年生は学級に戻り、そして1年生は引き続き体育館で『ともだちや』（※2）の読み聞かせを行った後に、いじめに対する考察と意見交換を行い、それぞれの考えを深めました。以下に、そのいくつかを紹介いたします。（原文ママ）
<1年>

- ・「自分は良くても相手が不快な気持ちになるような行為はやめてほしい。」
- ・「いじめが起きると、いじめられている人、また、その人の家族までとてもいやな思いをさせてしまう。」
- ・「いじめられた方（嫌な思いをした方）は一生覚えているというのと、心の傷はなおる事がないので、いじめた方（嫌な思いをさせた方）は、犯罪と同じくらい重い罪だと思った。」
- ・「その一つはいじめで、一人の人間の人生を大きく変えてしまう。そして、そのいじめられた人の心には、ずっと治ることのない、大きな深い傷が付いてしまう。」

<2年>

- ・「この話が実際にあったことだと知って、とても悲しいと思った。ささいなことでもいじめにつながるので、気を付けていきたい。」
- ・「小学校の時にあったいじめを、結局は、いじめた人が先生に言われてなくなったけれど、自分が止めに入らなくて、助けになってあげなかったことを今でも後悔しています。だから、もし、いじめが起きてしまったら、今度は、後悔しないためにも、助けたい。」
- ・「いじめはダメだよって大人が言うけれど、その大人がいじめを止めたことはあるのか。いたいよ、辛いよ、って言っても、『本当にそれ、いじめなの』で片付けられてしまう。それで相手が死んだ時とかに、止められなくてごめんなさい、とか言っても、しょうがないのに。」
- ・「誰だって考えることはだいたい同じだけれども、『いけない』『よくない』『悲しくなる』だけではいじめに対しての考えは全く何も変わらないと思った。しかし、それを変えることが難しく、分からないから、人々が苦労していて、いじめについてを真剣に考えることが過程だと思う。」



< 3年 >

- ・「いじめの話はたくさん聞いてきたけど、今日の話は、いじめられたいもうと、その家族の苦しんでいる様子がとても鮮明に分かって、すごく辛かった。」
- ・「自分はいじめはなくなると最初は思ったけど、自分たち一人一人が考えていけば、いじめはなくなると思いました。」
- ・「いろいろな考えがあった。同じ事でも人によって様々な考えがある。考え方の違いでいじめが起きてしまうのかもしれないと思った。」
- ・「『確かに』と共感できる発言が多くあった。過去形になって終わる前に、いじめをなくしていきたいなと思いました。」
- ・「いろいろな人がいるから、合う・合わないはきっとあると思うが、それを理解した上で、それぞれの人と付き合っていくのが大切だと思った。人間は皆平等だから、誰か一人がいやな思いをしていたら、それはいじめで、絶対にいけないことだと改めて思った。」
- ・「いじめに対していろいろな意見があったけど、いじめがなくなってほしい気持ちはみんな同じなので、絶対に起こしてはいけないと思った。」
- ・「自分の考えと同じ人もいれば違う人もいて、かみ合わない人もいると思うけど、そこからいじめにつながるのも良くないし、もしいじめていたら止めてあげることができればいいなと思った。」
- ・「同じテーマでも一人一人が違う意見をもっていた。自分がいろいろな立場に立つことで、見えてくるものが違った。」
- ・「自然の摂理だと思う。人は人を踏み台にしている事で自分の居場所を作っている事が多いので、『いじめ=人を殺す』ではなく、人が、ある人の上になりたいという気持ちが高いがため起きる自然現象だと思う。世間一般ではいじめについて触れているが、具体的な対処が出されておらず、いじめはダメという印象なのは分かるが、関わり方については報道されていないような気がします。『いじめは社会問題だ』というのではなく、どう関わって、どういう考え方をするのが大事かをもっと報道するべき。」

一人一人が、真剣に考えていることが分かります。「絶対にダメ」「助けたい」というものから、それでも現実に起こってしまうことに対して、「どうしたらいいのか」ということまで……。中には、大人として耳の痛い意見もあります。いずれにせよ、生徒たちが、自分自身の問題として捉え、真剣に考え続けることが、よりよい方向へと進んでいく力となるのだと考えます。同時に、我々大人が、子供たちの言葉を一つ一つ真摯に受け止め、学校はもちろんのこと、そこに留まらず、いじめのない社会を作るために、範を示すべき立場として、共に考えていきましょう。キーワードは、『寛容』そして『共感』、でしょうか。

一学期中の、保護者、地域の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。これから長い夏休みが始まります。子供たちがしばし学校を離れ、それぞれが主体的に、意欲をもって過ごす中で、一人一人が成長し、9月には元気に2学期を迎えることを心待ちにしております。石南中生の健全育成のために、家庭、地域での目配り・心配りと声かけを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(※1)『わたしのいもうと』 松谷みよ子 : 文 / 味戸ケイコ : 絵 (偕成社)

(※2)『ともだちや』 内田麟太郎 文 / 内田麟太郎 降矢なな 絵 (偕成社)

夏休みの予定

7 / 23 (月) ~ 29日 (日)	前期ラジオ体操
7 / 24 (火) ~ 27日 (金)	1年生臨海学校
8 / 14 (火) ~ 16日 (木)	学校休業日
8 / 20 (月) ~ 26日 (日)	後期ラジオ体操
7 / 12 (木) ~ 8 / 31 (金)	受変電施設交換工事の為、電気の使用制限有り

皆さん体に気をつけて楽しい夏休みをお過ごしください。